

十神山



# 会報



# 安来節

YASU GI BUSHI

発行所 安来節保存会

〒692-0064  
島根県安来市古川町534  
TEL 0854-28-9988  
FAX 0854-28-9393  
https://www.y-hozon.com/  
E-mail:admin@y-hozon.com

## 令和4年唄い初め会

令和4年1月10日、2年ぶりに「唄い初め会」を開催いたしました。

会場を例年の「安来節演芸館」から安来市総合文化ホール「アルテピア」に変更し、客席の間隔を設けるなど、新型コロナウイルス感染症対策を十分に講じた上で開催いたしました。

ご来場いただいた皆様には、ご協力をいただき、誠にありがとうございました。

一日でも早く新型コロナウイルス感染症が終息し、通常開催出来ることを願ってやみません。



上位昇格者免状授与



会員功労者表彰

私が安来節の芸として銭太鼓と  
どしようすくいを知ったのは、小  
学校の頃だったと思います。私に  
は、芸事が好きで安来節を習って  
いた叔父がおり、「お前は、声が  
良いので安来節を習ってみないか」  
と勧められ、益田支部に入会する  
事となりました。当時の益田支部  
の会員に故 波佐本静摩さんとい  
う方がおられ、その波佐本さんの  
強い勧めをいただき、安来節芸人  
として生きていく決意を致しまし  
た。

その後、波佐本さんの仲介で、  
故二代目出雲愛之助師匠の民謡  
道場に内弟子入りし、芸人として  
の修業が始まりました。最初に習  
ったのは銭太鼓で、指導は兄弟子  
の三代目出雲愛之助先輩から教え  
ていただきました。何といっても  
三番の歌詞に入る前にテンポが段  
々速くなる所を合わせるのが分か  
らず、カセットを何回も何回もか  
け直しては稽古に励みました。師  
匠から「銭太鼓は一月もあれば  
舞台に立てるようになるはずだ」  
と言われました。当時は夕方にな



**私と銭太鼓**  
銭太鼓 准名人  
出雲正之助  
(益田支部)

# 私と安来節

ると師匠をはじめ、兄弟子やお母  
さん達は玉造温泉旅館に観光客の  
宴会芸芸として出掛けられるので、  
留守番をしておりました。舞台が  
終わり、帰って来られるのは、だ  
いたい午後九時頃なので、その留  
守間を利用し、三十分程、銭太鼓  
の稽古をしようと決め、稽古に励  
み、その時間は、とても長く感じ  
たことを今でも思い出します。そ  
の甲斐あってか、銭太鼓の三番歌  
詞の早打ち手順のテンポが掴める  
ようになりました。次に「三番の  
打ち手順は自分で考案しなさい」  
と言われ、試行錯誤の末、自分だ  
けの三番早打ち手順が出来上がり  
ました。

初舞台は、入門から一カ月後の  
鳥取市郡家町での敬老会で、唄と  
銭太鼓で舞台を踏ませていただき  
ました。若かったのか、銭太鼓は  
落とすこともなく、安来節も何と  
か唄い切り、無事に終える事が出  
来ました。

安来節三ツ物芸とは、安来節・  
どしようすくい・銭太鼓と言われ  
ておりますが、銭太鼓は見る人に  
喜ばれる大切な芸と確信を致して  
おります。最近では、演芸も少なく  
なり、銭太鼓の振り回しが上手く  
出来なくなつたように感じます。  
長く銭太鼓に携わってきたことも  
あり、今では安来節以外の民謡や  
歌謡曲にも自分が振付けた五曲の  
銭太鼓もあります。私が指導した

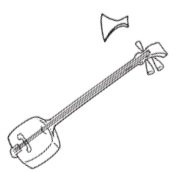
この度は、松江支部のご推薦に  
よりまして、安来節保存会より絃  
准名人位を頂きました。これも偏  
に原文男先生のご指導の下、諸  
先生方、皆様方のご指導の賜物と  
深く感謝申し上げます。

一昨年前から新型コロナウイルス  
の影響で安来節保存会の行事も  
自粛や中止となり、残念でした。  
そして、二年ぶりに新年の唄い  
初め会が開催され、例年とは違う  
雰囲気の中での始まりでした。  
私は、三味線と鼓で出演し、まず  
は唄、踊り、銭太鼓の順に三味線  
伴奏、その後、鼓での披露と緊張  
しながら楽しみも感じられて良か  
つたです。また、令和三年度に唄  
名人に昇格されました出雲俊之助



**私と安来節**  
絃 准名人  
小村 顯二  
(松江支部)

後輩達の皆様を受け継いでもら  
たいと思っております。  
今後、私に与えられた安来節人  
生、一日一生の思いで芸道に励  
みたいと思しますので、皆様方の変  
わらぬご支援ご鞭撻をよろしくお  
願い申し上げます。



先生の三味線伴奏をさせていただき、言葉には言い表せないほどの感動をいただき、心より感謝しております。一生忘れることが出来ない良い年になりました。

私は、松江支部に入会して四十二年目です。最初に三味線から習い、まずはバチの使い方、音の出し方と覚える事が多く、とても難しかったです。ようやく曲の手順も覚え、初めて審査を受審し、二級に昇格し、とても嬉しかったです。次々と進むにつれ、たくさん

の壁にもぶつかり、悪戦苦闘の日々が続きました。准師範に挑戦する頃から少しずつですが、自分の中で面白さや楽しさを感じることが出来るようになり、准師範、師範と昇格できました。その後は、全国優勝大会へ向けて挑戦し、何回も出場しました。また、松江支部団体の三味線メンバーとして出場し、二年連続で優勝することが出来たことが、大きな自信に繋がりました。

これからは、私自身にも磨きをかけて勉強することがたくさんありますが、この上は絃准名人の名に恥じぬよう一層精進し、安来節の伝承と普及振興、保存会の発展に微力ながら努力させていただきます。今後とも、より一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

コロナ禍で規制や自粛と不安な日々が続きますが、一日も早く収束することを願っております。皆様方のご健康と益々のご活躍を心より祈り申し上げます。

### 安来節の発展を願って



絃 准名人  
清山満智子  
(本部道場)

子どもの頃、祝い事や集りの後に近所の人が家に来られ、安来節を唄ったり、安来拳を打ったりされる姿に名人芸だと感心したものです。

初めて安来節に取り組んだのは、高校卒業後まもなくの事で、安来節の先生に出会い、四年程三味線を習いましたが、だんだんと仕事や家庭が多忙となり、いつしか途切れてしまいました。

その後、再び安来節が身近になったのは、平成二年に安来市がふるさと創生事業で市内全公民館に安来節教室を開いた時です。この時、初めて唄を習い、決まった曜日に教室で仲間と一緒に学ぶことが楽しく、技倆の向上に一心になりました。これを契機にあらため

て三味線を習いはじめ、数十年ぶりに保存会へ再入会、一からのスタートでした。安来節は、唄と伴奏の三味線のメロディーが全く違い、落としてピタッと同時に終わるのは難しく、その難しさが魅力でもあると思います。短期間でマスターできるものではありません。これまで長年、技倆を磨いてきましたが、最近、自らの技倆の追求のみならず、後継者の育成はもとより、時代の移り変わりと共に

求められるものについて考えをめぐらせています。二年前より、新型コロナウイルスが蔓延して社会環境が一変しました。長年にわたり多くの出演者聴衆を集めて開催されてきた安来節全国優勝大会をはじめとする行事や研修会が中止され、資格審査はビデオ審査となり、唄い初め会は会員のみが参加して昇格者免状授与式等が行われるなど、会員が集い、勉強する場や一般の方が安来節に直接触れる機会が少なくな

り、とても残念に感じています。このような状況下にあっても、保存会会員として安来節が多くの人々に親しまれるよう取り組んでいきたいと思えます。安来市の無形民俗文化財に指定された私たちの郷土民謡が、今日まで全国に広まり唄われてきたのも、これまでの先人たちの愛着と情熱によるもので、後世に唄い継ぐ責任の重みを感じます。

この度は、思いもよらず絃准名人に推挙いただき、身に余る榮譽に深く感銘いたしました。今後さらに精進を重ね、安来節の発展に貢献すべく微力ながら努力する所存です。今日まで導いてくださった師匠をはじめ、先生方、先輩の皆様、お世話になった皆様のお蔭で安来節を続けてこられました。心より感謝申し上げますとともに、なお一層ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

### 安来節を見つめて



唄 准名人  
妹尾なおみ  
(加茂支部)

この度、加茂支部のご推薦を賜り、安来節保存会より唄准名人に昇格させていただきました。これもひとえに出雲俊之助先生をはじめ、諸先生方のご指導と家族の協力、皆様方のご支援あつてのことと深く感謝し、身に余る光栄と同時に、大変な重責に身の引き締まる思いを痛感しております。

令和四年一月十日、二年ぶりに唄い初め会が開催されました。いろんな規制のある中、感染対策等関係者の皆様には、ご苦勞ご心配等あつたと思いますが、令和三年の昇格者の皆様とともに昇格披露をさせていただけた事はとてもありがたかったです。唄い初め会では、久しぶりに保存会の皆様にお会いできた事が嬉しくて、とても穏やかで温かい気持ちで唄うことができ、やっぱり顔を合わせる事、言葉を交わす事は大事だなあとつくづく思いました。

私は、四歳から父の影響で安来節を始め、今日まで共に歩んできました。若い頃は声のままに、小さい時に覚えた唄をただ唄っていただけでした。

ある時、民謡など全くやっていない友人から、「安来節っていろんな場面で唄える民謡だよ」と

言われた事があります。どちらかといえば軽快で、お客様と手拍子と一緒に楽しめる民謡のイメージを持っていた私にとって、この言葉は今でも印象深く残り、安来節を見つめ直すきっかけとなりました。確かに歌詞によって冠婚葬祭あらゆる場面で唄えるなあと。

安来節には、しおりに載っている二〇〇以上の歌詞を含め、歴史や文化、風景や風情、人々の思いが込められたもの等、沢山の歌詞があります。これらをいかに聞き手に伝えるか、また伝えるには、どう表現するかを追求していくのも魅力の一つです。言葉のつけ方、声の使い方、強弱等表現の仕方は人それぞれで、そこに個性がうま

れると思えます。まずは、沢山の安来節をあらためて聞いてみてはどうでしょうか。先人の諸先生方の安来節には、一〇〇年以上唄い継がれた安来節の魅力が沢山詰まっています。自分もこんな風にできたらなあと思ってみたりします。なかなか真似できるものではありませんが、耳に残る節回しは、これからの自分の芸へのヒントになるかもしれません。私自身、これからも基本の唄を土台に自分なりの表現方法を追求していきたいと思っています。

最後になりましたが、コロナが落ち着き、会員の皆様と笑顔で楽しく一緒に勉強できる日が早く来ることを切に願います。

私と安来節の出合いは、「本場の安来節を習いたい」という家内と、今は亡き、門脇長市、高野静子両先生の教室「安来芸能文化学院」を訪ねた時に始まります。当時、すでに三十数年に及ぶ無料の教室を開いておられた両先生は、ご高齢でしたが、二部屋の壁側にズラリと座った生徒達に、何度も何度も繰り返し唄って聞かせながら、心のこもった指導をしておられました。最初は、家内の送迎だけのつもりでいた私も、師匠に勧められ習い始め、やがて二人の子供達も入門し、毎週土曜日午後八時から十時までの教室を楽しく勉強させていただくようになりました。そして高野先生の勧めで、丸瀬一宇先生に三味線、どじょうす

つそう強くなり、充実した日々を送ることが出来ました。この度、踊りで准名人をいただき、身に余る光栄と深く感謝しております。今後、一層精進して参りますので、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

### 私と安来節



踊 准名人  
増田惣市  
(本部道場)

私と安来節の出合いは、「本場の安来節を習いたい」という家内と、今は亡き、門脇長市、高野静子両先生の教室「安来芸能文化学院」を訪ねた時に始まります。当時、すでに三十数年に及ぶ無料の教室を開いておられた両先生は、ご高齢でしたが、二部屋の壁側にズラリと座った生徒達に、何度も何度も繰り返し唄って聞かせながら、心のこもった指導をしておられました。最初は、家内の送迎だけのつもりでいた私も、師匠に勧められ習い始め、やがて二人の子供達も入門し、毎週土曜日午後八時から十時までの教室を楽しく勉強させていただくようになりました。そして高野先生の勧めで、丸瀬一宇先生に三味線、どじょうす

つそう強くなり、充実した日々を送ることが出来ました。この度、踊りで准名人をいただき、身に余る光栄と深く感謝しております。今後、一層精進して参りますので、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

つそう強くなり、充実した日々を送ることが出来ました。この度、踊りで准名人をいただき、身に余る光栄と深く感謝しております。今後、一層精進して参りますので、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

つそう強くなり、充実した日々を送ることが出来ました。この度、踊りで准名人をいただき、身に余る光栄と深く感謝しております。今後、一層精進して参りますので、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

つそう強くなり、充実した日々を送ることが出来ました。この度、踊りで准名人をいただき、身に余る光栄と深く感謝しております。今後、一層精進して参りますので、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。



### 安来節に 育てられて



高橋大河  
(神門支部)

私は、今年二十歳になります。八歳で安来節を始め、早いもので十年以上が経ちました。保存会の先輩方の足元にも及ばない期間とはいえ、私自身、人生の半分以上、安来節を見聞きしながら育ち、練習を重ねて参りました。

当初は、ここまで続けるとは思っていませんでした。挨拶や礼儀を始め、優しく丁寧に、時には気迫に満ちた熱い指導をしてくださる先生方、共に切磋琢磨し、競いあつて来た仲間達のお陰だと思っております。

令和元年八月、初めての師範踊りの部で出場した優勝大会。何の結果も残す事が出来ませんでした。私にとって大きな学びの年になりました。今年こそはと意気込んだ令和二年。世界的に蔓延した新型コロナウイルス感染症により大会中止。そして、令和三年四月、高校卒業後に全寮制の学校へ進学致しました。教室への練習に参加できず、更に加速するコロナの拡大により練習も中止になるなど、悶々とした日々。時折、「大河、どげしとるか？」と連絡をいただいたり、長期休みに帰った時には、大切な時間を割いて指導してくださる先生方や、窪田教室の仲間が恋しくなる事もあります。そんな

中でも時間を見つけては、三味線を触ったり、所作をしてみたり、地道な自主練習を重ねています。学校では、私の目指す職業には欠かせない、龍笛や和太鼓など、奏楽の授業があります。私は比較的早く、手や運指を覚える事が出来ました。これも、安来節で教わり、培われた経験のお陰だと思えます。

皆で練習をしたいけれど、できない今。自分なりに、今できる事とできない事を判断しながら、今だからこそできる事に注力し、毎日大切に過ごしたいと思います。卒業できた際には、世界のコロナが収束し、思い切り安来節が出来る日を、願っています。

### 私と安来節



服部幹男  
(関東支部)

滑稽な所作と表情、ふと心癒される笑顔の「安来節どじょう掬い踊り」に私が初めて出合ったのは、昭和三十年も後期でした。当時は、映画や大衆演芸が全盛の東京浅草六区に開館した「浅草演芸ホール」でした。ある若手落語家が裏芸として披露した踊りに、衝撃と共に熱い何かが私の心の奥に根付きました。この踊りを通して、叶う事なら今日の感動をいつの日か多く

滑稽な所作と表情、ふと心癒される笑顔の「安来節どじょう掬い踊り」に私が初めて出合ったのは、昭和三十年も後期でした。当時は、映画や大衆演芸が全盛の東京浅草六区に開館した「浅草演芸ホール」でした。ある若手落語家が裏芸として披露した踊りに、衝撃と共に熱い何かが私の心の奥に根付きました。この踊りを通して、叶う事なら今日の感動をいつの日か多く

の人に伝えたいとの願望が深く残り、青春時代の細やかな夢のまま歳月が流れて光陰流転、半世紀が過ぎて還暦を迎えた埼玉の地で、パート先の同僚との縁あつて、川越文化センターの「どじょう掬い教室」の情報を得て、早速入会に至りました。平成十九年六月、教室の扉を開けた先には、目にも懐かしい踊り衣装にザル、ビクを携えた先輩方、そして私の長年の夢を託してご指導を仰ぐ、若岑緑峰師匠との貴重な出会いとなりました。月に二回の稽古、そして師匠の意志を継ぐ、大島ヨシ子師匠のもとに時折、復習で通いました。稽古では、関東各地の仲間が集い、審査会等でもお世話になる一宇楽

英紀先生の心地良い絃で勉強させていただいております。私が当初思い描いていた踊りと正調安来節の奥深さを備えた真の伝統芸の違いを事細かに師匠から常に根強くご教授いただきました。「水に足を入れている際の所作、歩き方、自然に滲み出る笑顔、表情の移り変わりの際も品良く丁寧にすることや就寝前に一度は曲を耳にしてテンポ感を養うこと」鏡の前での笑顔作りは、少々気色悪く保留にしましたが、毎日、本部道場の一宇川勤先生のビデオを参考に諸先輩方の支えもあり、少しずつですが、幾多のイベント、各施設への慰問、地域の文化祭と活動も広がり、五十八号会報に掲載の武藤辰夫先輩から受け継いだ中学校の体

験学習では、汗だくで真剣に受講する生徒さんに、逆にパワーをいただいて、あらためて「安来節との出会いに感謝です」わけあつて若岑師匠は、故郷の安来に帰りましたが、私も師匠に長年ご指導いただいた「安来節」を宝として精進して、踊りの他に難関の唄も身を入れて師匠の意志を受け継いだ若岑緑奈師匠の指導を仰ぎ、踊りとは異なる唄の魅力を求めて日々模索中です。貴重な伝統と共に生きる安来節の灯が永遠に輝くように、そして保存会の繁栄を祈念しつつ、これからもどじょうを追いかけて行きます。「アラ、エッサツサー」

## 会員の声コーナー

### 「民謡民舞 全国大会」 唄「安来節」で 優勝



遠藤 孝  
(津山中央支部)

令和三年十二月十七日、東京都品川区立総合区民会館（きゅりあん）に於いて、公益財団法人日本民謡協会主催の「民謡民

舞全国大会」の熱戦が繰り広げられました。

私は、高年の部に出場し、唄「安来節」で優勝、真紅の優勝旗と文部科学大臣賞優勝カップ、賞状等を受賞。

この大会は、全国を各プロックに分けて行われ、まず民謡民舞中国連合大会で各部門別の優勝者として全国大会の出場権を与えられ、出場しました。

廻れば安来節は、平成三年より丸瀬一宇先生の指導を受け、本場の安来節に触れ、平成四年に唄と絃に挑戦、二級から始まり、他府県の民謡とは違い、なかなか難しかったのを思い出します。

ます。

日本民謡協会安来会に籍を置き、発表会、コンクール等に出場、活動していますが、並行して安来節保存会津山中央支部にて安来節保存会津山中央支部に代議員として籍を置き、支部長の野坂亮若先生の下、支部の活動と支部会員の育成・指導、また子ども三味線教室として小中学生の指導も行っております。

平成二十二年に安来節全国優勝大会で師範の部、絃で優勝を頂き、翌年には、絃・大師範を拝命いたしました。

令和三年十一月二十九日には、兵庫県より「ともしびの賞」を受賞、この賞は、民謡・民謡三味線を通じ、後進の指導育成に努めると共にボランティア活動でも地域文化の向上に尽くした

ことによる受賞です。

暗いコロナ禍の続く日々ですが、大きな賞をいただき、更なる精進を続けて行きたいと思っております。



感動を呼ぶ 音色と 響き 丹念な加工 調整 仕上げ

# 有仁ホ三味線

製造・販売/修理 三味線・鼈甲撥・尺八・太鼓

〒240-0022 神奈川県横浜市保土ヶ谷区西久保町197-1

TEL 090(5782)7408 FAX 045(741)4796

HP <http://www.syamisen.com/>

# 支部PR動画を募集します！

安来節保存会は、年々、会員が減少しております。

会員獲得を目的とし、各支部にて「PR動画」を撮影していただき、その動画をYouTubeの「安来節保存会動画チャンネル」にて、たくさんの方々にご紹介したいと考えております。

つきましては、下記要領にて募集いたしますので、多数のご応募をお待ちしております。

記

**募集期間** 令和4年3月～令和4年6月（ビデオ審査収録時に撮影していただいても構いません。）

**提出方法** 当会貸出ビデオ以外は、MP4形式でUSBメモリかSDカードで提出してください。

**動画時間** 1支部3分以内

**動画内容** 各支部の紹介、宣伝等（感染対策の上、数名で収録されても結構です）

※撮影の際に必ず含めていただく内容

1. 支部の活動拠点（例：〇〇近郊を中心に活動しております安来節保存会〇〇支部ですなど）
2. 支部の活動内容（例：毎月〇回の練習会、〇月発表会、〇月慰問活動など）
3. 地元方言にて勧誘（例：みなさん、一緒に安来節をやりませんかー。すごく楽しいですよー。みなさまのご参加、お待ちしております。）

↓（島根地域方言にて下例）

みなさん、一緒に安来節をやらんかねー。がいに楽しいけんねー。  
みんなの参加を待ちちょーけんねー。

《注意事項》笑顔で楽しい雰囲気撮影してください。

動画内にて支部の連絡先など個人情報、言わないでください。

## 例 文

安来節保存会の安来支部です。安来支部は、島根県安来市近郊で月に4回「民謡安来節」教室を開催しております。安来節には、唄、三味線、鼓、どじょうすくい踊り、銭太鼓があり、好きなものを選んで、やってみませんか。運動不足解消、ストレス発散などにも役立ちますよ。

詳しくは、安来節保存会までお問い合わせください。

みなさん、一緒に安来節をやらんかねー。がいに楽しいけんねー。みんなの参加を待ちちょーけんねー。

## 安来節保存会ホームページ リニューアルのお知らせ

このたび、ホームページをより使いやすく快適にご利用いただけるように、リニューアルを行いました。

これまでパソコン用のホームページとなっておりましたが、時代を考慮し、スマートフォンなどのモバイルにも対応いたしました。

ホームページ内で各種申請書もダウンロードして使用出来ます。

今後とも、わかりやすく情報を掲載するホームページを目指して参りますので、よろしくお願いいたします。

## 役員決定

役員改選に伴い、資格審査長、副資格審査長、指導部長、副指導部長が決定いたしましたので、お知らせいたします。

（任期…令和3年10月1日～令和5年9月30日）

資格審査長	渡部 孝夫
副資格審査長	渡部 四代目 お糸
指導部長	矢倉 哲郎
副指導部長	原 淳文
〃	出雲啓之助
〃	富田 光雄

## 計 報

渡部弘充さん（本部道場長、七十四歳）が令和四年一月六日逝去されました。渡部さんは、今日まで安来節保存会に多大なご功績を残されました。ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。